

分掌	教務部
現状及びアンケートの結果分析等	・ 個別の指導計画は教育課程ごとに実態や教科の特徴に応じて、より効果的な運用ができるように一部様式を変更した。引き続き「起点は評価から」をメインテーマとして、運用の在り方について探っていききたい。 ・ 指導要録や出席簿等について、これまで保管や運用についてマニュアル等の作成・改善を進めてきた。今後はその他の重要書類の管理等について、現状を見直し改善を進めていく必要がある。 ・ 昨年度はコロナ禍にあり、保護者や関係者が来校する機会が少なく、行事も形態を変えたり中止したりすることが多くなり、児童生徒の教育活動を具体的に知っていただくような機会が激減した。来校することができなくても、学校の取組、成果、児童生徒の生き生きとした活動の様子を発信できるような広報活動を考えていきたい。 ・ コロナ禍において、ホームページのもつ役割がより重要になってきた。情報の公開に関して充実させるだけでなく、ホームページを通した情報の取得等についても現状を整理し、改善する必要がある。
今年度の具体的な目標 明確な重点目標	(1)それぞれの教育課程に応じた個別の指導計画について、記載内容や評価・改善に関する理念について理解促進を図るとともに、学校全体でその質を向上させることができるような運用方法を確立させる。 (2)各種重要書類等について、管理方法や運用に関するマニュアルを見直すとともに、適切な管理が継続できるようなシステムを構築する。 (3)ホームページや学校だよりなど、外部への発信をより分かりやすく充実できるよう、内容や方法について改善し実践する。
重点目標を達成するための校内組織体制	・ 個別の指導計画について、これまでの実績を踏まえ分かりやすい例示や記載に関するマニュアル作成を教務部内で協力して進める。また、実用生の高い運用を目指し、各部において作成を主導する管理職との連携を深める。 ・ 重要書類等の管理、保管に関する校内での現状を把握するために各部、分掌と連携を図る。また、より適切な運用、管理、保管を目指し、管理簿やマニュアル等の改善や保管場所等の抜本的な見直しを進める。 ・ 学校として発信すべきことを整理し、ホームページが情報取得のツールとしての機能がより高まるよう各分掌等と連携を図る。 ・ 教育活動について臨場感のある発信を活性化できるよう、発信内容に関して各部、分掌との連携を図る。
目標の達成に必要な 具体的取組	(1)それぞれの教育課程に応じた個別の指導計画について、記載内容や評価・改善に関する理念について理解促進を図るとともに、学校全体でその質を向上させることができる運用を確立させる。 ①これまでの実績や課題を整理し、評価や改善等に関する好事例をまとめ、それぞれの様式のもつ役割とともに作成に関するマニュアルを作成する。 ②作成者に対する理解啓発だけでなく、管理職と連携し運用に関する課題を洗い出し、継続的な改善を行うことで実用的な運用を図る。 (2)各種重要書類等について、管理方法や運用に関するマニュアルを見直すとともに、適切な管理が継続できるようなシステムを構築する。 ①教務部だけでなく各部、分掌等における、これまでの管理方法等に関する内容を把握する。 ②必要に応じて管理簿やマニュアル等を見直すとともに、適切な運用、管理、保管について整理し、具体的な改善を図る。 (3)ホームページや学校だよりなど、外部への発信をより分かりやすく充実できるよう、内容や方法について改善し実践する。 ①教育活動について臨場感のある発信を活性化するため、行事だけでなく普段の教育活動を積極的に発信する。

	②ホームページで発信する内容について、その対象と内容を整理し、より伝わりやすく、閲覧者が情報を取得しやすいようなページ構成に変更する。 ③保護者にとって学校の取組が身近に感じられるように、ホームページ、学校だより、すぐメール等学校の情報を発信する媒体の関連性を高める。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	(1)それぞれの教育課程に応じた個別の指導計画について、記載内容や評価・改善に関する理念について理解促進を図るとともに、学校全体でその質を向上させることができるような運用方法を確立させることができたか。 (2)各種重要書類等について、管理方法や運用に関するマニュアルを見直すとともに、適切な管理が継続できるようなシステムを構築することができたか。 (3)ホームページや学校だよりなど、外部への発信をより分かりやすく充実できるよう、内容や方法について改善し実践することができたか。
取組状況・実践内容等	(1)・部によって少しずつ異なっていた個別の指導計画の様式を修正し、自動転記等についても統一した。 ・前期の目標や手だて等について保護者と確認するために、7月に個別懇談を追加した。 ・夏季及び冬季休業中には個別の指導計画に関する評価・改善を行う検討期間を設けた。検討会に向け、個別の指導計画における評価や改善の考え方、記入上の留意点、これまでの記入例（好事例）等をまとめた資料を作成し配付した。 (2)・各部や分掌等で保管している文書について、ファイル名や保存期間、保存場所、重要度等について調査し、一覧表を作成した。 ・保護者から預かった個人情報の一部について、管理簿及び持ち出し簿を一新し管理方法を見直した。 ・より正確な管理ができるよう、保存文書の重要度や使用目的等に応じて保管場所を変更した。 (3)・ホームページ上の「最近のトピックス」では、各部、各分掌と連携し、当校の近況に関する情報を発信した。 ・当校のホームページをより見やすくリニューアルするために、教務部内で調査チームを編成し他校のホームページについて調査を行った。
評価の視点	
(1) 個別の指導計画について、記載内容や評価・改善の理念に関する理解促進を図るとともに、学校全体でその質を向上させることができるような運用方法を確立させることができたか。	A (B) C D
(2) 各種重要書類等について、管理方法や運用に関するマニュアルを見直すとともに、適切な管理が継続できるようなシステムを構築することができたか。	A (B) C D
(3) ホームページや学校だよりなど、外部への発信をより分かりやすく充実できるよう、内容や方法について改善し実践することができたか。	A (B) C D
成果・課題	
(1)○7月に個別懇談を実施することで、半年ごとのPDCAサイクルがより実用的に機能するようになった。 ○個別の指導計画における評価と改善について、評価や改善の捉えをQ&A形式や好事例を提示することで、より具体的な評価及び改善案が多くみられた。 ▲個別の指導計画について、その理念や各様式の記載に関する説明を示したマニュアルを目標とした年度途中で完成させることができなかった。 (2)○校内の保存文書について、一覧表を作成したことで、用途や重要度に応じた保管及び管理方法について整理することができた。 ▲保管や廃棄等のマニュアルまでには至らなかった。 (3)○コロナ禍でも学校の様子を身近に感じていただけるよう「最近のトピックス」では、教育活動の様子を中心に、ほぼ毎週発信することができた。 ▲ホームページのリニューアルについては、目標とした年度途中で完成させることができなかった。	A (B) C D

来年度に向けての改善方策案	・次年度はじめには、周知、活用ができるように、個別の指導計画のマニュアルを年度末までには完成させる。 ・今後も引き続き保存文書に関する保管、管理の在り方を検討し、マニュアルの完成を目指す。 ・「見やすさ」「身近さ」をテーマにしたホームページにリニューアルできるよう、作業を年度内に試作版を作り、来年度には本格運用を目指す。
---------------	---

分掌	渉外部
現状及びアンケートの結果分析等	・安全・安心を第一に今できる活動をPTA役員と検討し、そのPTA活動に対し保護者ができるだけ積極的に取り組めるよう支援を工夫している。 ・広報・環境委員会では、「しゃべりっちながら」「すまいるながら」の発行に向けての活動、保護者アンケートの集計、ベルマーク収集等を家庭で行えるよう支援した。特にベルマーク収集については、例年より家庭でできることを増やすため、ベルマークを集める期間を決め、集まったベルマークを家庭で仕分けたり点数計算したりすることができるよう支援した。 ・「ふれあいの日」や「地域交流講座」等の地域交流活動の代替活動としての壁新聞の作成が積極的に行えるよう支援した。長良5校に掲示してもらうことによって当校のPTA活動の様子や児童生徒のこと、病弱特別支援学校について知ってもらうことができた。 ・PTフォーラムの代替活動として、防災環境部と連携して「しゃべりっちながら」を活用しての家庭での防災意識を高める活動に取り組んだ。保護者が「我が家における防災」について原稿を執筆し協力することで、会員同士の交流を深めることができた。
今年度の具体的なかつ明確な重点目標	(1)研修委員と広報・環境委員が自主的・積極的にPTA活動に取り組めるよう支援する。 (2)「地域交流講座」等の地域交流活動が、地域、保護者間及び長良5校との交流の場となるよう計画・実施する。 (3)「ふれあいの日」について、保護者と児童生徒が活動を充実させることができ、PTA会員同士が交流できるよう計画・実施する。
重点目標を達成するための校内組織体制	・渉外部とPTA役員が連携し、学校職員と保護者の協力体制を確立する。 ・地域（長良5校PTA等）と連携し、協力体制を構築する。 ・他分掌と連携し、PTA関係行事を実施できるよう協力体制を整える。
目標の達成に必要な具体的取組	(1)研修委員と広報・環境委員が自主的・積極的にPTA活動に取り組めるよう支援する。 ①それぞれの専門委員会の活動について安全・安心に行えるようPTA役員と内容や時期を検討していく。 ②PTA行事一つ一つについての理解を深めるため、「しゃべりっちながら」や「PTAだより」に目的や内容、参加した保護者の感想等を載せていく。 ③PTA行事や研修会等の内容や、保護者が参加する意義について学校職員が理解し、保護者に参加を促すことができるような校内体制を作っていく。 ④保護者が積極的に取り組めるよう、活動ごとに必要であれば保護者にアンケートをとり、それを踏まえて、PTA役員会で検討していく。 (2)「地域交流講座」等の地域交流活動が、地域、保護者間及び長良5校との交流の場となるよう計画・実施する。 ①「地域交流講座」等の地域交流活動が、長良5校のPTAとの交流の場として、より積極的に取り組めるよう内容を検討していく。 (3)「ふれあいの日」について、保護者と児童生徒が活動を充実させることができ、PTA会員同士が交流できるよう計画・実施する。 ①保護者が動画撮影や作品作り等児童生徒と一緒に家庭でできることは何かを検討し、そのことをPTA会員同士が交流できるようにPTA役員と検討し、支援していく。 ②PTA行事でもあり、学校行事でもある「ふれあいの日」が全校体制で臨めるよう、計画・実施していく。

達成度の判断・判定基準あるいは指標	(1)保護者にPTA活動への参加を促し、保護者同士が繋がることのできるPTA活動が行えるよう支援していくことができたか。 (2)当校の現状とPTA活動について、理解・啓発を促す方策をとり、当校PTA会員と長良5校PTAとの交流を支援することができたか。 (3)「ふれあいの日」の計画・実施において、保護者の思いを十分に汲み取り、全校体制で実現できるよう支援できたか。
取組状況・実践内容等	(1)・昨年度に引き続き新型コロナウイルス対応のため、PTA専門委員会において一昨年度までのような活動を行うことは、難しかった。しかし、PTA役員を中心にしてコロナ禍でもできる活動を考え、積極的に取り組めるように支援した。 ・研修委員会の活動では、「地域交流講座（先輩の話を聞く会）」をキャリア支援部との共同主催で行い、8人の保護者がオンラインで参加した。長良5校保護者は参加が難しかったが、後日、講演内容を長良5校に配付した。「PTフォーラム」は、運営委員会職員と連携しながら実施した。研修委員代表が自主的に計画、運営等にかかわり、9人の保護者がオンラインと対面で参加した。 ・広報・環境委員会の活動では、「しゃべりっちながら」「すまいるながら」の発行に向けての取組、「保護者アンケート」の内容の検討、集計分析、「ベルマーク活動」に参加した。 (2)研修委員会を中心に壁新聞を作成した。長良5校に掲示してもらい、当校のPTA活動や病弱特別支援学校について知ってもらえるよう見やすい壁新聞作りに取り組んだ。 (3)「ふれあいの日週間」として、金華祭と同時開催とし、コロナ禍だからこそ、つながりを大切にしたいという保護者の思いから児童生徒の顔写真のスライドショーやフラッグ作り、作品作り等を行った。一部の保護者は写真や動画を家庭で撮影、提供した。スライドショーは、オンライン配信を行い、多くの保護者に見てもらうことができた。
評価の視点	評 価
(1)研修委員と広報・環境委員が自主的・積極的にPTA活動に取り組めるよう支援していくことができたか。	A ② C D
(2)「地域交流講座」等の地域交流活動が、地域、保護者間及び長良5校との交流の場となるよう計画・実施することができたか。	A ② C D
(3)「ふれあいの日週間」について、保護者と児童生徒が活動を充実させることができ、PTA会員同士が交流できるよう計画・実施することができたか。	A ② C D
成果・課題	総 合 評 価
(1)○地域交流活動の代替活動とした「壁新聞」作りでは、保護者の執筆希望が多く、レイアウトや作成については、研修委員代表が自主的に家で行い、協力して取り組む体制ができていた。 ○「PTフォーラム」では、保護者の疑問や悩み等を保護者同士や教員と話すことができ、有意義な会になった。研修委員代表が司会と感想発表を行い、意欲的に取り組んだ。また、今後も運営委員会職員に協力してもらうことで、保護者のニーズに合うよりよい会にしていく。 ○「しゃべりっちながら」では、新型コロナウイルス対応のため、学校に参集しての活動ができなかったが、登下校時等に役員と話をしながら原稿依頼から発行までスムーズに行うことができた。「しゃべりっちながら」の継続発行希望が多いので、記載内容等をPTA役員中心に検討できるようにしていきたい。 ▲「すまいるながら」では、新型コロナウイルス対応で保護者からそれぞれの執筆者に原稿依頼をすることができなかった。 ○ベルマーク活動では、ウェブベルマークの活用が好調だった。 ▲ベルマーク活動のうち、自宅での仕分け作業では、多くの保護者の希望があったが、日程、方法の検討不足があり、郵送する件数も多く、自宅で行う活動としては負担のあるケースがあった。保護者がより主体となる方法を今後検討したい。 (2)○「地域交流講座（先輩の話を聞く会）」では、オンラインだからこそ参加ができた保護者がいて、貴重な話を聞くことができたとの感想があった。 ▲年1回発行の「壁新聞」であったが、発行時期が遅れたので、無理のない活動計画を立てる必要がある。今後、長良5校の関係者に壁新聞についてのアンケートを実施予定である。長良5校の代表と共通理解を図りながら、丁寧に進めていきたい。	A ② C D

(3)○コロナ禍でのふれあいの日週間をPTA企画であると同時に学校行事でもあるという考えのもと、保護者の思いを汲み取り全職員に協力してもらい実施することができた。	
来年度に向けた課題と改善方策案	・来年度9月実施予定のふれあいの日について、今年度より早い段階でPTA役員と学校職員で検討する。 ・保護者の学校参集が難しい場合、何らかの形でPTA活動に参加できること、無理なく家庭でできること等をPTA役員会で時間をとり考えたり、他校の活動を参考に情報収集したり、アンケートを実施し方法を探ったりし、ともに考え、充実感のある取組をめざしたい。

分掌	研究研修部
現状及びアンケートの結果分析等	・主題研究の取組を実践交流中心にして各グループ単位で進め、単元計画や授業改善チェックシートを元に話し合いができた。 ・教科部会を開催し、教科の専門性の向上や授業実践の交流など行って教科指導力の向上に取り組めた。 ・専門家による授業支援について、より効果的な活用ができるように周知の方法や日程の決定方法について検討し改善を行った。 ・オンラインの研修や会議がスムーズに行えるように、Web会議室の調整や、オンライン会議等で使用する教室の調整を行って、混乱が起きないようにできた。 ・タブレット端末やノートPCなどの技術的サポートを個別に行って、個々の課題に対応した。 ・ICT機器の整備や、効果的な使用法についての研修を実施して、授業での活用を促すことができた。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1)研究のまとめに向けて、各研究グループ内で授業の実践交流がより深まるようにする。 (2)より効果的で効率的な研修が行えるように全体計画を作成する。 (3)タブレット端末やノートPCの授業での活用を促進する。
重点目標を達成するための校内組織体制	・研究チーフ会において、各研究グループに連絡係を置くために全校体制で人選の選択を行う。 ・教員の指導力を高めるための研修を推進するために、各分掌やコア・ティーチャーとより綿密に連携を図る。 ・ICT機器のより実践的な活用を目指すために、教員の全校児童生徒一人一人に対するアプローチを個別に支援する体制を整備する。 ・情報セキュリティポリシーを遵守のため、情報セキュリティ委員会等を通じて、学校全体の共通理解を図る流れをつくる。
目標の達成に必要な具体的取組	(1)研究のまとめに向けて、各研究グループ内で授業の実践交流がより深まるようにする。 ①各部・類型グループで昨年度に作成した単元計画の検証を進める。 ②各グループでの実践を、次年度からの取組に繋がられるようにまとめる。 (2)より効果的で効率的な研修が行えるように全体計画を作成する。 ①研修の全体計画を作成して各研修の位置づけを明確にし、内容の偏りや重複がないかについて確認する。 ②専門家による授業支援の体制を整備して、個々の教員のニーズに合った授業支援になるようにする。 ③研修の事後アンケートを分析し、成果と課題をフィードバックする。 (3)タブレット端末やノートPCの授業での活用を促進する。 ①児童生徒の各障がいの特性、発達段階の捉え方を踏まえたICT機器の活用のための相談を行い、より効果的なICT機器活用方法をアドバイスする。 ②予備機や代替案等を確保して、機器トラブルによる使用不能の状態が起きないようにする。 ③機器の調達、修理に迅速に対応できるように、報告の流れを見直し、情報を共有して対応をスムーズにする。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	(1)主題研究において、各研究グループ内での授業実践交流を行って、結果を次年度からの取組に生かせるようにまとめることができたか。 (2)各研修の目的や対象を明確にした職員研修の全体計画を作り、効率のよい研修計画を作成することができたか。 (3)授業でICT機器の稼働率を向上させ、活用を促進できたか。

取組状況・実践内容等	(1)・研究主題を『社会とかかわる力を育てる病弱教育の在り方～新学習指導要領を踏まえた授業づくりを通して～』とし、各グループで評価表や振り返りシートを使って実践交流をして、研究主題にせまるための実践を進めた。 (2)・各研修会について参加者アンケートを分析し、研修内容や対象者の妥当性について分析し、主催する分掌長にフィードバックした。 ・各分掌の主催する研修を集約し、目的や対象者について精選を行い、次年度の研修計画を作成した。 (3)・相談窓口を広げ、各学部のＩＣＴ機器やオンラインに関する相談を受けた。またＩＣＴ研修会を通して有用なアプリや新しい情報、既存の機器の使い方等を職員に紹介した。 ・機器の修理や調達を迅速に行い、またそれらの使用方法やルールを提示することで、機器を広く、安心して使えるようにした。
評価の視点	評価
(1)研究主題・学校の課題に迫って、校内研究を進めることができたか。	A ㊦ C D
(2)各研修の目的や対象を明確にした職員研修の全体計画を立てることができたか。	A ㊦ C D
(3)各学級のニーズに応えながら、安心・安全な活用を目指し、授業でのＩＣＴ機器の更なる活用がみられたか。	A ㊦ C D
成果・課題	総合評価
(1)○研究チーフ会にて、各研究グループの取組報告、今後の見通しや方向性を確認して進めることができた。 ○各研究グループの実態に応じた方法で研究グループ会を実践交流の場としたことで、単元・活動計画を基にして研究主題にせまった他部の授業内容や支援方法について意見交流することができた。 ▲他グループと実践交流する時間をもつことが難しかった。 (2)○各研修のアンケート結果の分析を行い、主催の分掌にフィードバックすることができた。 ○各分掌の研修を集約し、学校全体の研修のグランドデザインを検討することができた。 ▲病弱特別支援学校としてふさわしい研修の内容を検討し、職員に周知していく必要がある。 (3)○各部や学級のニーズを受け、児童生徒の実態に沿ったＩＣＴ機器の活用方法をアドバイスすることができた。またＩＣＴ研修会にて、様々なツールと使い方、有用なアプリやタブレット端末の機能を紹介し、ＩＣＴの活用をより促すことができた。 ○オンラインでは、行う授業や行事、講義に合わせた機器を提供し、円滑に進めることができた。またトラブル時を想定し、事前のリハーサルを行ったり、代替機の準備をしたりした。 ○iPadに関しては、毎日ほぼ１００％の稼働率で活用することができた。その他ＰＣやSurface、周辺機器や外部スイッチ等も毎日使用されていて、各職員が工夫してＩＣＴ機器を活用していた。 ▲ＩＣＴ機器や周辺機器の在り処を明確にして、使用しやすい環境を整える必要がある。	A ㊦ C D
来年度に向けての改善方策案	・校内研修をより意義のあるものとするために、グループに所属するコア・ティーチャーと連携し研究グループ会を進める。 ・全校での実践交流の方法を工夫することで、他グループの実践も互いに共有できるようにする。 ・各分掌と緊密に連携し、病弱特別支援学校として必要な知識技能を効率よく身に付けるための研修の在り方を引き続き検討していく。 ・機器の整理をして、使用しやすい環境を整える。 ・使い方の紹介や活用事例の紹介を積極的に行って、ＩＣＴ機器の活用を促進する。